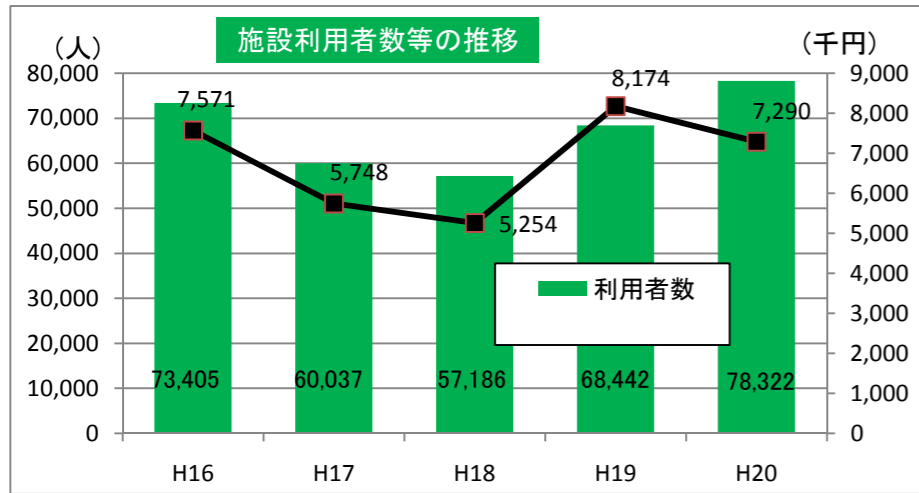


歴史博物館は 元気が出る博物館です！！

所在地	福井市大宮2丁目19-15		
設置年月日	昭和59年4月8日 (リニューアルオープン:平成15年3月12日)		
施設の種類	博物館	施設管理主体	県
設置の目的	郷土の歴史、民俗等に関する資料の収集、保管および展示等を行い、もって県民の文化の向上に寄与することを目的とする。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上2階、地下1階、延9,044㎡ 展示室(トピックゾーン、歴史ゾーン、オープン収蔵庫)、情報ライブラリー、講堂		
職員数	正職員9人、非常勤嘱託1人、アルバイト4人 計14人		

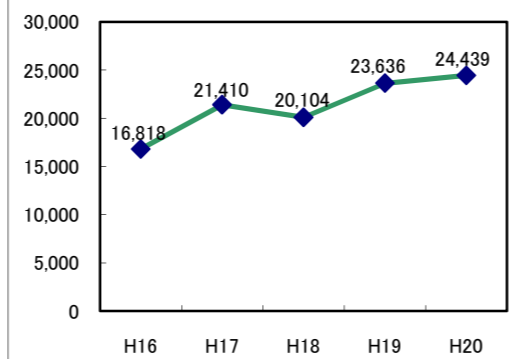
	H16	H17	H18	H19	H20
利用者数(人)	73,405	60,037	57,186	68,442	78,322



利用者負担(利用料金)等

入館料 (常設展)	一般・大学生	100円
	高校生以下	無料
	70歳以上	無料

企画展の観覧者数の推移(人)



利用状況の推移	<p>平成15年3月のリニューアルオープン後、平成16年度の入館者数は大幅に増加しました。</p> <p>平成16年度に開催された特別展「昭和の子どもたち」は、リニューアル後初の企画展でもあったことから入館者が1万6千人を超え、1企画当たりとしては開館以来最高となりました。</p> <p>その後、平成17、18年度と入館者数は減少しましたが、平成19年度は「昭和一人と車のオーナー」展に1万1千人の入館者があり、全体で対前年度比20%増加しました。</p> <p>平成20年度も「昭和の大博覧会」や収蔵品展の開催により、対前年度比14%の増加となりました。</p>
---------	---

施設の特徴

福井県の歴史や文化に関わる総合的な人文系歴史博物館として、資料の調査研究・収集・保管を行い、常設展示、企画展、さまざまな普及事業により、地域の歴史・文化についての親しみと理解を深めるための支援活動を行っています。

・収蔵資料は約15万点に達します。これらは県指定文化財3件を含み、地域の歴史・文化の基礎的な資料であるとともに、美術的、歴史的に高い価値を持つ資料も多数保管しています。

・常設展示は、旧石器時代から現代までのものづくりを中心にした福井県の歴史を紹介する「歴史ゾーン」と、昭和30～40年代の暮らしを紹介する「昭和の暮らし」コーナーで構成されています。

・県内の記録映画や当館で独自に企画した映像資料の提供は、当館の常設展示の特色で、「昭和の暮らし」は親しみやすさで好評です。

・企画展は大規模なものを2回、やや小規模なものを2回程度毎年開催しています。このほか当館が保有する資料の公開、新規収蔵資料の紹介などコンパクトな企画も行っています。



常設展「昭和の暮らし」コーナー



企画展「干支の動物たち」

20年度の特徴について

【調査研究・資料の収集】

平成20年度から昭和の写真の調査・収集、干支の造形物の調査を始めました。写真の収集は昭和への理解と展示をより深めるためのもので、「昭和の大博覧会」の開催時に多くの方から提供をいただきました。

干支の資料は、県内の大規模なコレクションの寄託を受けるとともにデータの蓄積を進めました。このほか「越前一乗住」の銘をもつ脇差、越前焼焼成実験の大甕と実験データ、昭和の生活資料等を購入し、象牙の将棋駒等の新たな寄託を受けました。

【展示・普及活動】

平成20年度は企画展を次のとおり開催しました。なお企画展では図録などを発行し、展示説明会、講演会、ワークショップ、見学会などを併せて開催しました。

- 1) 「人と色の歴史シリーズ あお」(4.26～6.8 42日間) 外部の専門家との共同企画。色彩としての「あお」の特性、「あお」に込められた意味や思いを展示にしました。色の小部屋の試みは広い関心呼び、NHKの全国放送にも取り上げられました。
- 2) 「昭和の大博覧会」(7.26～11.3 97日間) リニューアル5周年を記念し、展示面積も大きく長期間に亘り開催しました。昭和30～40年代を昭和史の中に位置づけることを目指し、昭和初期から高度成長期までの福井を概観しました。
- 3) 「新春特別企画 干支の動物たち」(1.3～2.22) 牛と十二支全体の動物を対象にして、日本の郷土玩具、欧米のフィギュアなど多様な資料で、人と動物との関わりを示しました。

このほか公開を行った館蔵資料の主なものは次のとおりです。

- ① 「甲冑の美 越前松平家ゆかりの逸品たち」(10.11～11.9)
- ② 「よみがえる色彩 復元絵馬」(11.22～1.25)
- ③ 「象牙の将棋駒と将棋盤」(2.7～2.22)

事業実績

福井県立歴史博物館(2/2)

行政コスト計算書(平成20年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	98,217	28.2%	100.9%
	退職給与引当金繰入	99	0.0%	-1.2%
	賞与引当金繰入	4,583	1.3%	皆増
	計	102,899	29.5%	115.3%
物にかかるコスト	物件費	130,689	37.4%	101.6%
	維持補修費	9,743	2.8%	106.2%
	減価償却費	96,133	27.6%	100.0%
	計	236,565	67.8%	101.1%
その他	支払利息	7,427	2.1%	93.1%
	その他	2,160	0.6%	88.5%
	計	9,587	2.7%	92.1%
合計		349,051	100.0%	104.6%
収入	利用料等収入	6,627	1.9%	99.7%
	一般財源	342,424	98.1%	105.4%

バランスシート(平成21年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	4,286,731	97.9%	固定負債	774,131	91.1%
うち土地	736,500	100.0%	うち起債残高	718,798	92.4%
うち建物・設備	2,794,829	96.8%	うち退職手当引当金	55,333	77.4%
うち収蔵品・資料	750,006	100.1%			
投資等	0	-	流動負債	72,218	121.7%
流動資産	0	-	純資産	3,440,382	99.1%
計	4,286,731	97.9%	計	4,286,731	97.9%

主な指標 (単位: %、円/人)

	H20	H19	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	5,276	5,373	98.2%
県民1人あたり将来負担額	953	1,042	91.4%
世代間負担率	80.3	79.3	101.3%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>行政コストのうち高いウエイトを占めているのは物件費で37.4%となっており、施設の維持運営に係る経費が含まれています。</p> <p>その他のコストとして支払利息がありますが、これは、平成14年度のリニューアル工事に約13億円を要し、その際に10億円の県債借入を行い、平成17年度から償還が始まっているからです。</p> <p>建物が築25年を経過するため修繕箇所が多くなり、維持補修費が2.8%増加しました。</p> <p>収入面では、企画展の入館者数が微減したことにより、利用料等収入が0.3%減少しました。</p> <p>有形固定資産は約43億円で、そのうち建物・設備が約28億円と全体の7割近くを占めています。</p> <p>一方、将来の財政負担となる負債として起債と退職手当引当金等があり、県民一人当たりの将来負担額は他館よりも大きくなっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>管理部門： 施設の維持管理、資料の保管と管理 【H21予算額：約105百万円】</p> <p>事業部門： 調査研究事業 … 歴史・民俗・考古等の調査研究、資料の購入 【H21予算額：約20百万円】 企画展開催事業 … 企画展の開催（4回程度）、展示資料入替 【H21予算額：約15百万円】 教育普及事業 … 企画展のテーマに関連し、ゆかりの地を訪ねるバスツアー等の開催 【H21予算額：約2百万円】</p>
今後の課題	<p>リニューアル後6年が経過し、さらなる入館者増を図るためには、常設展示において館蔵資料の積極的な公開を進めること等が必要と考えています。</p>
今後の事業方針 取組み内容	<p>利用者のニーズを把握しながら、新しい魅力を創造し、親しみのある身近な博物館として入館者増を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展の内容充実や関連するイベントの開催、また常設展の定期的な入替 エントランスホールを活用し、市町との連携事業、ミュージアムライブ、大型展示等の実施 小中学生向き体験学習の取組み推進 学校、老人福祉施設等への訪問によるPR活動の強化

